

久米御嶽講(高名講)の歩みと現在 久米御嶽講 名譽講元 下田博之

狭山丘陵はその東端で尾根を境に南側は東村山市、北側は所沢市に分かれます。この都県境に位置した嘗ての久米村(現所沢市久米)には、古くより今日まで二つの御嶽講がありました。私共の講は開講以来高名講(当代・高名都雄氏)を御師と仰ぎ、地域では「久米高名講」と呼ばれます。

戴いて戻る。途中で休むとそこに雨が降ってしまうという言い伝えを守って奈良橋辺りに別の若者が待ち受けて竹筒を受け継ぐ。村人は鎮守八幡神社に集まり使者の到着を待つ。ご祈祷のあとの囃子連の笛太鼓を先頭に、村人の行列が鎮守の森を下って柳瀬川に向かう。川に着けば禪一つになった大人達

のが、昭和十二年に五九名に増加し、終戦後一時減少したもののやがて増加し、昭和五十六年四月永代参拝記念碑を建立した頃には一六名にまで達しました。その後は減少に転じ、平成二十二年現在で六六名です。

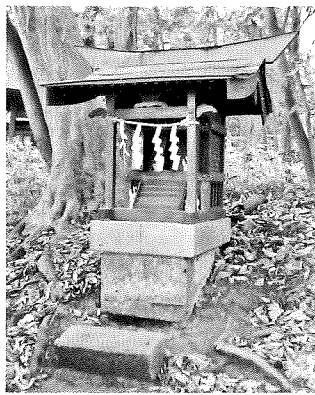
一七四年前の天保七年生まれの私の曾祖父が初代の講元を務めたと聞いていますので、久米講は明治少し前頃の開講かと推測しています。開講当時の久米村は狭い谷戸田での稲作りに、入間台地の畑作、養蚕・機織り、山仕事など小規模ながら多角的な農業を営む家々で成り立つ村でした。谷戸田は決して豊かな水に恵まれず、また水の乏しい入間台地の畑作では、早魘を受け

毎年の「お日待ち」は、戦前は講中の家を順に回って行われましたが、戦後は地域の自治会館に会場が変わりました。御師様のご祈祷のあと総会の席で、来年の代参人が決められます。以前は団体参拝が一年置きでしたが、近年は2年置きになりました。その後は昔通りの酒の入った楽しいお日待ちとなります。正月には高名御師様が各戸を回ってお札を配られますので、皆顔見知りで、宴会の席も御師様を囲んで話も盛り上がりです。

現在の講元は開講以来七代目に当たる丸山一氏が務め、副講元、会計を置き、各地区から世話人を出して講の運営に当たっています。都市化した現状と高齢化は講員減少の主な原因と考えますが、一四〇余年の伝統ある久米御嶽講の維持発展のため、高名御師様のご指導のもと講員一同務めてまいりたいと思います。

使者二人が早朝に起き出て御嶽神社まで駆けつけ、七代の滝の水を竹筒に

古くから小さな祠の御嶽神社が祀られています。講元は代参や団体参拝で戴いてきた新たな大口真神札を祠内に祀ります。かつては「御神酒奉獻当番連名帳」を講中に回し、毎月一日、十五日、二十八日に竹筒に入れた御神酒を奉獻することが定めていた。



久米地域の鎮守八幡神社の境内に、古くから小さな祠の御嶽神社が祀られています。講元は代参や団体参拝で戴いてきた新たな大口真神札を祠内に祀ります。かつては「御神酒奉獻当番連名帳」を講中に回し、毎月一日、十五日、二十八日に竹筒に入れた御神酒を奉獻することが定めていた。



御岳山の行事

Table listing shrine events for Okuyama Shrine from October to May. Events include New Year Shrine Festivals, Autumn Shrine Festivals, and various seasonal rituals.

石段修復事業開始

昨年より始めさせていたいただきました石段修復事業でございますが、多くの講中崇敬者の皆様の御浄財をいただきまして早くも今年度に第一回目の修復工事着手させていただきました。ご寄進頂いた方々のご芳志を損なわぬよう、素晴らしい石段が竣工できますように尽力させていただきます。工事期間中は御参拝の皆様にご迷惑をおかけ致しますが、今後ともご理解、ご協力の程をお願い申し上げます。



奉納石段

三代に亘り毎年参拝し御嶽大神のご加護を賜り、永代記念し随神門上に石段を奉納させていただきます。

平成二十一年十一月竣工
奉納者 さいたま市西区宮前町
谷 島 政治
高 名 都 雄



奉納

Table listing donors and their contribution amounts for the stone step restoration project. Includes names, addresses, and donation amounts.